

伊那谷地域の戦略的チャレンジ(具体的な取組) R2.3策定

豊かな自然環境と地の利を活かした持続可能な地域づくり

1 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす

- ① **景観形成、共通サイン整備【三風の会+南信州広域連合】**
- ② **広域二次交通の整備【行政+民間事業者】**
- ③ 移住定住・二地域居住のための住環境整備【市町村】
- ④ 自然を活かした教育環境の充実【市町村】
- ⑤ **将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体+市町村+地域振興局】**

2 国内外から人を惹きつける地域をつくる

- ⑥ **周遊滞在型観光コンテンツづくり・受入環境整備【広域DMO+観光機構】**
- ⑦ アルプス等自然環境の活用【県環境部】
- ⑧ 伝統文化の保存継承、活用【南信州広域連合】
- ⑨ 国際交流・語学教育の推進【市町村】
- ② **広域二次交通の整備【行政+民間事業者】 (再掲)**

3 地域を支える産業の活性化

- ⑩ **グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進【県産業労働部・地域振興局+市町村】**
- ⑪ **大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進【県産業労働部・地域振興局+市町村】**
- ⑫ 産・学・官・地域の人的交流の場(ナレッジスクエア)の形成【市町村】
- ⑬ 地元産業の育成・高付加価値化【経済団体・市町村】
- ⑭ 産業を支えるインフラ整備【県・市町村等】
- ⑮ 農畜産業、食品産業等の活性化(アグリイノベーション)【伊那谷アグリイノベーション推進機構・JA・市町村】
- ⑤ **将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体+市町村+地域振興局】 (再掲)**

赤字：リニア開業に向けて、各機関が連携して喫緊に取り組むもの
 黒字：既に取組が行われており、各機関において進めていくもの
 ※【】内は各取組の主体(事務局)となる機関

① 景観形成、共通サイン整備【三風の会+南信州広域連合】

取組と成果

- 三風モデル看板の設置【高森町、大鹿村】
・南信州地域に設置(高森町2箇所)、設置を検討(大鹿村)
- 景観重点化路線の設定【景観形成プロジェクト会議(南信州広域連合)】
・来訪者の観点からサイン整備、支障木除去等を重点化に行う路線を設定
- 中央アルプスのサイン整備【中央アルプス地区山岳遭難防止対策協会、駒ヶ根市】
・駒ヶ根区間へ先行して看板設置(7箇所:宝剣岳~檜尾岳)
・14登山道の統一道標導入について、関係9市町村(南箕輪村、伊那市、宮田村、飯島町、松川町、飯田市、大桑村、上松町、木曽町)に概ね理解を得た
- 伊那谷ビュースポットの発掘【上伊那・南信州地域振興局】
・「伊那谷のいいところフォトコンテスト」応募数1,473件(R4.12末)
・市町村推薦ビュースポットの写真収集(10~3月 78カ所)

現状と課題

- 共通デザインによるサインの導入を目指していたが、南信州圏域では複数市町村で独自デザインによる整備を進めていることや財源確保の課題等もあり、一部町村で上伊那の三風モデルの採用を決めた以外はデザインの共通は困難

今後の方向性(案)

- 管内市町村へ三風モデル看板導入の目標再設定【南信州地域振興局】
・管内市町村に意向を確認し、目標を再設定
- 伊那谷の隠れた景観発掘・発信の推進【上伊那・南信州地域振興局】
・市町村と連携して、隠れた新たなビュースポットの環境整備を検討

② 広域二次交通の整備【行政+民間事業者】

取組と成果

- 広域二次交通のルート及びスケジュール案の検討【交通担当課長会議】
 - ・高速バスを主軸に、エリア毎（南信州、上伊那・木曾方面、松本・長野方面）のルート案策定
 - ・法的手続きや施設整備
- 3 圏域（上伊那・南信州・木曾）の広域的な公共路線をまとめたマップ作成【南信州地域振興局】
- M a a S の研修会開催・活用研究【交通担当課長会議】

現状と課題

- 役割分担を行ったものの、十分な検討を行える体制が整っていない
 - ・分担ごとに検討を進めることとしたが、それぞれの検討状況の共有が難しい
- 全体で共有すべき事項の検討の場が不明確
 - ・二次交通整備の考え方や次世代モビリティへの対応、需要予測の調査・分析等に関してどこが担うか不明確

今後の方向性（案）

- 二次交通整備の考え方や対応方針等を共有し、次世代モビリティへの対応など行う「リニア駅アクセス検討会議（全体会）」を新設【飯田市、県交通政策課、上伊那・南信州地域振興局】
 - ・飯田市が事務局を担い、県交通政策課や地域振興局も事務局として参画
 - ・南信州圏域を越える広域二次交通は、交通体系の検討を行うとともに、その状況について検討会議で情報共有する

⑤ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体+市町村+地域振興局】

取組と成果

- 「伊那谷deキャリア教育研修会」の開催【実務担当者会】
 - 参加者数 R 3 : 161名 R 4 : 144名
 - Facebook「伊那谷deキャリア教育」による情報発信【実務担当者会】
 - 地域の取組への相互参加【キャリア教育関係者】
 - ・上伊那・南信州相互の取組みを共有し、今後の活動に活かすためキャリア教育の研修会等へ相互参加
- ⇒ ・伊那谷の育成関係者が、地域の未来を語り合う機会となり、地域の枠を超えたつながりや一体感が醸成
- ・人口減少や高齢化など、地域の危機的現状及びキャリア教育の目指すべき方向性を共有
 - ・事業の主旨に賛同し、協力したいとの意向を示す個人が徐々に増加

現状と課題

- キャリア教育の取組に対するスタンス（取組主体や手法）が地域ごと異なるので、全て統一的に進めることはできない
- 継続的に事業を進めるためには、予算も含めた推進体制の明確化が課題

今後の方向性（案）

- 連携可能なことを実施し、学び合う取組の継続【実務担当者会】
 - ・キャリア教育研修会の開催
 - ・SNSの活用
 - ・地域の取組への相互参加を促進
- 取組を継続していくための推進体制の構築【地域振興局、市町村・広域連合、産業界】

⑥周遊滞在型観光コンテンツづくり・受入環境整備
【広域DMO+観光機構】

取組と成果

- 3地域（上伊那・南信州・木曽）周遊コンテンツ・コースの検討
【伊那路・木曽路広域観光連携会議】
・旅行会社、メディアによるファミトリップの実施
（上伊那-木曽、上伊那-南信州、南信州-木曽コース）
- 3地域（上伊那・南信州・木曽）観光連携組織の立上げ
【伊那路・木曽路広域観光連携会議 プロモーション部会】
・3地域への誘客を促進するためにR3に設立されたDMO・観光協会による伊那路・木曽路意見交換会を伊那路・木曽路広域観光連携会議のプロモーション部会に位置付け

現状と課題

- コロナ禍で変化した旅行者ニーズの把握
- リニア開業で拡大する新規市場を想定した集客力のあるコンテンツづくり

今後の方向性（案）

- リニア開業を見据えた観光マーケティングの強化
【地域振興局、市町村、DMO、県観光機構】
- 里山の資源を活用した体験型コンテンツの研究【南信州地域振興局、市町村等】
・関係者による勉強会・先進地視察など
- 2つのアルプスを生かした山岳高原観光地域づくり【上伊那地域振興局】

⑩グローバル経済圏で活動する企業のサテライトオフィス誘致やフルリモートで勤務する社員の誘致
⑪大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進
⑩⑪とも【県産業労働部・地域振興局+市町村】

取組と成果

- リニア開業と長野県駅の認知度を高める取組を強化【産業労働部等】
・各市町村への訪問により、県の企業誘致施策について意見交換を実施
・産業界（7団体）と、県の産業立地政策について意見交換を実施
・企業立地ガイドを活用し、県外事務所を中心に都市部企業へ立地優遇制度等の周知を実施
・2023年1月に大阪で開催されるJapan IT Weekに出展（1/18～1/20）
- サテライトオフィス利用促進【南信州地域振興局】
・東京、名古屋及び大阪事務所において、テレワーク施設のリーフレットを活用し、管内サテライトオフィスやワーケーション施設等の利用を促した
- 「おためしナガノ」事業の実施【産業労働部等】
・県外のクリエイティブ人材・企業に対し、県内に「おためし」で住んで仕事をする機会を提供
・19組27名の参加者決定（うち4名は辰野町、飯田市で実施）
- 「おためし立地 チャレンジナガノ」事業の実施【産業労働部・採択市町村】
・市町村の地域課題の解決に取り組む企業を募集・マッチングを実施
・県内外51事業者115件の応募（うち、飯田市、松川町、下條村で実施）

現状と課題

- 新幹線沿線の長野市や軽井沢等では、男女問わずクリエイティブ人材が次々集まり、IT企業も集積している
- 東北信地域と比べると、IT企業の立地件数が少なく、地域のポテンシャルを活かしきれていない

今後の方向性（案）

- 最先端デジタル社会実現事業（令和5年度当初予算要求）【産業労働部】
・リニア中央新幹線の開通により形成されるスーパーメガリージョンの経済的波及効果を最大限に活かすとともに、クリエイティブ人材や高度IT人材のはたらく場を創出し、国内外から若者が次々集まるまちをつくるため、市町村等と緊密に連携し、GAFAMをはじめとしたグローバルに展開するIT企業を呼び込む

長野県リニア活用基本構想 & リニアバレー構想

～ リニア中央新幹線が創る信州の未来！ ～

長野県リニア活用基本構想 ～地域特性に応じて3つの交流圏を設定～

交流圏	地域
伊那谷交流圏	上伊那・飯伊地域 (リニアを活かし、大都市・世界とつながる)
リニア3駅活用交流圏	諏訪・木曽・松本地域及び近隣地域 (鉄道・道路・空港による多様な移動手段を選択)
本州中央部広域交流圏	長野県全域 (2つの新幹線、道路網を基軸に本州中央部の流動を創出)

リニアバレー構想 ～伊那谷がめざす姿～

- I 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点
～世界とつながる～
- II 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点
～日本を支える～
- III 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」
～ここで豊かに暮らす～
- IV 世界から人を呼び込む感動フィールド
～ここでふれあう～

めざす姿を実現するための取組

I リニアを活かした産業振興

伊那谷交流圏

- 【グローバル活動拠点】**
- 外資系企業等の中枢(本社・研究開発等)機能の立地
 - 学術・研究機関が立地する“知”の集積地の確立
 - 航空宇宙産業クラスターの形成
 - 健康・医療・介護など健康長寿を支える産業集積



旧飯田工業高校

II 災害に強い地域づくり

伊那谷交流圏

- 【災害時のバックアップ・食料等の供給拠点】**
- 企業の本社機能など都市機能の移転促進、居住地等整備
 - 後方医療支援・災害活動拠点としての機能整備
 - 農産物ブランド化、付加価値の高いアグリビジネス展開
 - 木材の安定供給体制の構築、木質バイオマスの推進

III 信州暮らしの魅力向上

伊那谷交流圏

【移住定住・二地域居住の促進】

- 通勤・二地域居住ゾーンなど圏域内のゾーニングの検討
- 分譲地の整備、二地域居住に必要な環境整備・情報提供
- エコロジーに着目した生活スタイルの提案

【豊かに暮らすための地域づくり】

- 伝統文化の保存継承による郷土意識の醸成と担い手育成
- 郷土愛の醸成による新たな文化の創造
- 若者を惹きつける魅力ある地域づくり



千畳敷カール

【魅力ある自然環境の保全と景観の形成】

- 南・中央アルプスなど美しく雄大な自然環境の保全
- 看板デザインのリール化など調和のとれた景観形成

IV 広域観光の推進

伊那谷交流圏

【広域観光ルートづくり】

- 協議会を設置し、駅を拠点とした観光ルートづくり
- 交通事業者と連携した二次交通の確保・整備

【体験型観光の推進】

- 多様な体験ツーリズムの確立、ヘルスツーリズムの推進
- フィールドスタディの誘致
- 担い手の育成、効果的な情報発信



伊那市高遠地区

【外国人旅行者の誘客】

- 外国人旅行者向け観光ルートの形成、海外プロモーションの展開、観光情報の一元化・広域的連携

【豊かな自然と実績を活かした国際交流】

- グローバル人材の育成、自然や伝統芸能を活かした国際交流の推進

良好なアクセスの確保

伊那谷交流圏

- 高速道路へのアクセス性向上
- 高速道路と各地域の連携強化
- 駅周辺の広場・道路の整備、公共交通の路線再構築
- 乗換新駅設置など飯田線との利便性確保、飯田線の活性化

魅力ある駅空間の創造

伊那谷交流圏

- 駅舎デザイン、内装への県産材利用、特色ある植栽
- 駅構内への眺望施設整備、総合案内・物販施設等の設置
- 乗換えが円滑にできる駅前広場や駅周辺駐車場の整備
- 地域住民も利用できる賑わい施設の設置

山梨・岐阜県駅等との交流の拡大

3駅活用交流圏
本州中央部交流圏

- JR中央本線の利便性の向上、高速化・快適性の確保
- 山梨県駅と諏訪・松本地域を結ぶ高速バス路線の開設
- リニア利用者拡大に向けた連携、本州中央部広域交流圏構想に向けた検討会議の開催

伊那谷の「課題」と「可能性」	
社会の変化	地域経済の課題
<ul style="list-style-type: none"> ■ 急激な人口減少・高齢化、首都圏への人口流出 ■ 生産年齢人口の減少 ■ Society5.0の実現で経済社会が大きく変貌（製造系雇用の減少、IT人材の不足） ■ 世界経済に占める日本経済の地位低下 ■ 「物の豊かさ」から「心の豊かさ」への価値観の変化 ■ 求められる教育環境の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人口減少・流出。高齢化率が高く、地域の担い手が不足 ■ 豊かな自然環境が移住、観光誘客等に活かされていない ■ 外国人旅行者数が少ない。日帰り観光が多く、一人当たり観光消費額が少ない ■ 自家用車以外の移動手段が脆弱 ■ 国内外で、この地域の認知度が低い ■ 全産業に占める情報通信業の割合が低い

伊那谷地域の4つの可能性
(目指すべき方向性)

人口減少に負けない持続可能な地域をつくる

大都市圏にない地域の価値を見出し、創り出し、磨き上げよう

1 雄大なツインアルプスと天竜川が織りなすダイナミックな自然環境を活かす

**2 良好な自然環境のもとで生活しながら大都市の利便性を享受できる立地を活かす
(東京は行くところ！伊那谷は住むところ！)**

**3 国際空港、三大都市圏等へのアクセスの良さを活かす
(国内外からヒト・カネを引き付ける)**

4 リニアがもたらす新たなヒト・情報の流れを、産業・研究・人材育成等に活かす

伊那谷地域の戦略的チャレンジ(具体的な取組)

豊かな自然環境と地の利を活かした持続可能な地域づくり

- 1 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす**
- ① 景観形成、共通サイン整備 【三風の会+南信州広域連合】
 - ② 広域二次交通の整備【行政+民間事業者】
(県交通政策課・地域振興局で枠組みを構築)
 - ③ 移住定住・二地域居住のための住環境整備【市町村】
 - ④ 自然を活かした教育環境の充実【市町村】
 - ⑤ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充 【企業・経済団体+市町村+地域振興局】

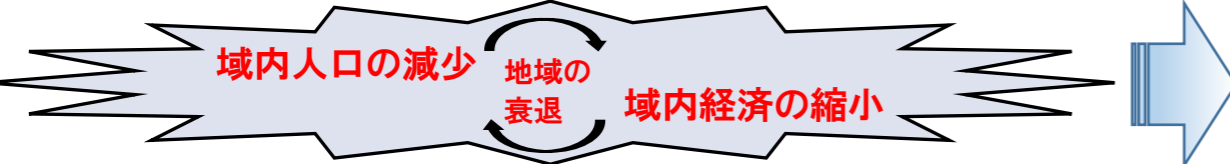
2 国内外から人を惹きつける地域をつくる

- ⑥ 周遊滞在型観光コンテンツづくり・受入環境整備【広域DMO+観光機構】
- ⑦ アルプス等自然環境の活用【県環境部】
- ⑧ 伝統文化の保存継承、活用【南信州広域連合】
- ⑨ 国際交流・語学教育の推進【市町村】
- ⑩ 広域二次交通の整備【行政+民間事業者】(再掲)
(県交通政策課・地域振興局で枠組みを構築)

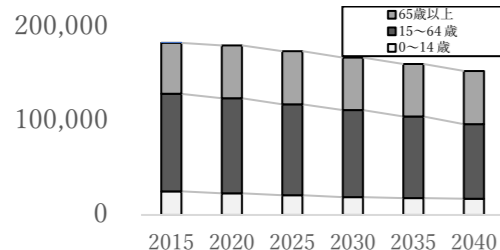
3 地域を支える産業の活性化

- ⑪ グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進【県産業労働部・地域振興局+市町村】
- ⑫ 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進【県産業労働部・地域振興局+市町村】
- ⑬ 産・学・官・地域の人的交流の場(ナレッジスクエア)の形成【市町村】
- ⑭ 地元産業の育成・高付加価値化【経済団体・市町村】
- ⑮ 産業を支えるインフラ整備【県・市町村等】
- ⑯ 農畜産業、食品産業等の活性化(アグリイノベーション)【伊那谷アグリイノベーション推進機構・JA・市町村】
- ⑰ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体+市町村+地域振興局】(再掲)

赤字：リニア開業に向けて、各機関が連携して喫緊に取り組むもの
黒字：既に取り組が行われており、各機関において進めていくもの
※【】内は各取組の主体(事務局)となる機関

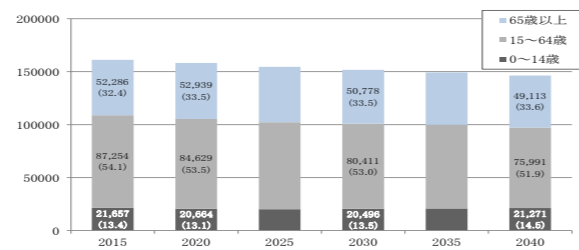


【上伊那地域の人口推移】



(注) 2015年は国勢調査、2020年以降は社人研準推計

【南信州地域の人口推移】



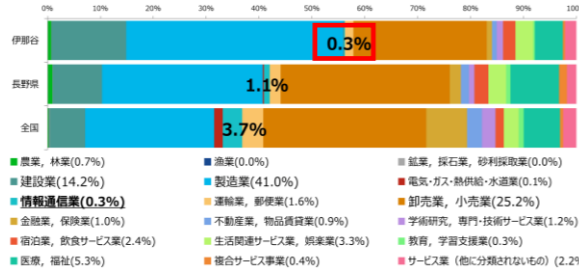
(注) 2015年は国勢調査、2020年以降は社人研準推計

【リニア開業後の長野県駅への交通手段】
(伊那谷居住者の意向)



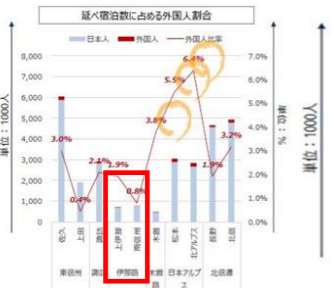
出典：リニア中央新幹線長野県駅とのアクセスのあり方調査事業報告書

【産業大分類別に見た売上高(企業単位)の構成比】



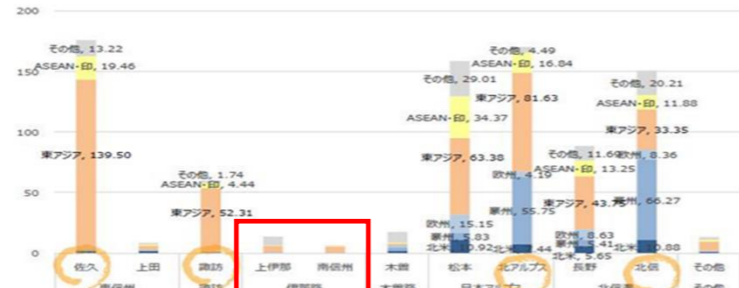
出典：RESAS(総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工)

【延べ宿泊数に占める外国人割合】



出典：「長野県観光地利用者統計調査結果」、「平成30年度訪日外国人観光動態調査事業」調査報告書(JTB総合研究所)

【主要6地域からの訪日外国人延べ宿泊数】



リニア開業に伴う今後の可能性

- 1 大都市圏と同一の交通圏
- 2 都市空間と自然環境空間が近接
- 3 リニア、高速道路、北陸新幹線で「本州中央部広域交流圏」を構築
- 4 国際空港、国際戦略港湾へ1時間でアクセス

- 新たなライフスタイルが実現することにより、移住・二地域居住が促進
- インバウンドを始めとする観光客が増加、観光消費額が増加
- 新たなヒトの流れが創出されることにより、産業・研究・人材育成等が促進

